

○津田左右吉『道家の思想とその展開』の第一篇「道家の典籍」中、第三章「呂氏春秋と淮南子」昭和三年 岩波書店

(全集卷十三 昭和三十九年)

○胡適『淮南王書—中古思想史的一章』 民国五十一年 台湾商务印書館

○金谷治『老莊的世界—淮南子の研究』(サーラ叢書) 昭和三十五年 平楽寺書店

このほか特殊な研究としては、錢塘『淮南天文訓補注』、上掲倉石武四郎『淮南子の歴史』(『支那学』三卷五・六号)、平岡楨吉『淮南子に現われた氣の研究』があり、また、本書の古鈔本として知られる「淮南鴻烈兵略問詰第廿」については、中国古典文学大系『淮南子』の「解説」中に詳論がある。

淮南鴻烈解序

淮南王、名安、厲王長子也。長高皇帝之子也。其母趙氏女、爲趙王張敖美人。高皇帝七年、討韓信於銅鞮、信亡走匈奴、上遂北至樓煩、還過趙、不禮趙王。趙王獻美人趙氏女、得幸有身。趙王不敢內之於宮、爲築舍于外。及貫高等謀反發覺、并逮治王、盡收王家及美人。趙氏女亦與焉。吏以得幸有身聞上。上方怒趙王、未理也。趙美人弟兼、辟陽侯審食其、言之呂后。呂后不許白。辟陽侯亦不強爭。及趙美人生男、恚而自殺。吏奉男詣上。上命呂后母之、封爲淮南王。暨孝文皇帝卽位、長上書願相見。詔至

長安。日從游宴、驕蹇如家人兄弟。怨辟陽侯不爭其母於呂后、因椎殺之。上非之。肉袒北闕謝罪。奪四縣還。歸國爲黃屋左纛、稱東帝。坐徙蜀嚴道、死於雍。

上聞之、封其四子爲列侯。時民歌之曰、一尺繒、好童童、一升粟、飽蓬蓬、兄第二人、不能相容。上聞之曰、以我貪其地邪。乃召四侯而封之。其一人病薨。長子安襲封淮南王。次爲衡山王、次爲廬江王。太傅賈誼諫曰、怨讐之人不可貴也。後淮南衡山卒反。如賈誼言。

校讎

*美人原本は「美女」。莊達吉により改めた。*長上書原本は「長弟上書」。諸先学の指摘により「弟」字を削除した。

淮南王の名は安、厲王「劉」長の子である。長は「漢の」高祖の子であり、母は趙王張敖の美人であった。高祖の七年（前300）、韓信を銅鞮の地に討伐し、信が匈奴の地に敗走すると、帝はこれを追つて北のかた楼煩に至つた。その後途、趙國に立ち寄つたが、帝は趙王に対し無礼に振る舞つた。趙王が「もてなしとして」美人趙氏の女を献じたところ、寵幸を得て帝の胤をみごもつたのである。趙王はわざと自らの宮殿に入れず、館を外に築いて住ませた。

〔その後趙王の臣である〕貫高等の謀反が発覚すると、併せて趙王を捕らえて罪し、王の一族や美人を獄に収容したが、趙氏の女もその中にひいていた。役人は、彼女が帝の寵を得て身重となつてゐる旨を帝の耳に入れたが、その折帝は趙王に対する怒りでいっぱいであつて、このことを調べてみようともしなかつた。趙美人の弟の兼が、辟陽侯審食其を介して、

事の取りなしを呂后に頼んだところ、呂后はこれを断り、辟陽侯もまた強いて要請することはしなかつた。やがて趙美人は男子を生むと「これまでのこと」と怨んで自殺した。そこで役人は男子を奉じて帝の目に参考する。帝は「さすがにあわれと思い」呂后に母親として養うことを命じ、またその子を淮南王に封した。「これが淮南厲王長である。」孝文帝「厲王の長兄」が即位すると、厲王長は、上書して謁見を願い出た。詔して長安にこさせたところ、長は連日のように遊宴にふけり、またその振る舞いは傲慢であつて、「帝と接するのに」世人の兄弟のことくであつた「君臣の礼を無視した」。辟陽侯が、其の母の処遇について呂后に強く訴えてくれなかつたことを怨み、彼を椎殺した。帝がその非を問責すると、彼は宮廷の北門に詰肌ぬぎとなつて罪を謝したので、所領のうち四県を没収しただけで帰国させた。「しかしながらの結果では、ついに」謀反の罪に坐し、蜀の嚴道にうつされる途次、雍の地で自殺して果てた。

文帝はこれをあわれと思い、厲王の四子を取り立てて列侯に封じた。當時の人が、これを次のように歌つた。

一尺の綿でも、けつこうおめかしはできるもの。

一尺の綿でも、仲よくやれないのだろう。

帝はこれを聞いて「朕のことを領土を貪るものと考えてゐるのだね」といい、すぐに四侯を召し、改めて王に封ずることとした。四子のうち一人はすでに病死していたので、長子安を淮南王に、次子勃を衡山王に、三子賜を廬江王に、それぞれ封じたのである。この時に賈誼は、「怨讐の念を抱く人は高貴の位においてはなりません」と諫めた。「果たせるかな」後に淮南王・衡山王は謀反したのであって、まさに賈誼の言の通りになつたのである。

○趙王張敖（？—前175）。張耳の子。張耳は漢朝創業の功臣、趙王に封ぜられた（前193）が、その翌年に没し、子の敖が代わり立つた。

高祖の七年、高祖は韓信を伐つて北征しての帰途、趙郡に立ち寄つたが、この際における高祖の態度が傲慢無礼をきわめたことから、翌八年、先代以来の家臣である貫高が高祖の殺害を企てた。事が発覚し、当然のこととして累は趙王に及び張敖は陥せられたが、後に赦され改めて宣平侯に封ぜられた。○韓信 戰國末の韓の襄王の孫、韓王信のこと（漢朝創業の功臣として有名な韓信とは別人）。漢の二年（前205）に韓王、六年（前201）に代王となつたが、匈奴の冒頓单于の攻勢にあい投降した。これを怒つた高祖が、銅鞮（山西省高陽県）に信を討ち、信は匈奴に逃走した。高祖は信を追つてさらに北上し、樓煩（山西省代県）に至つたのである。○美人 帝王・諸侯の